

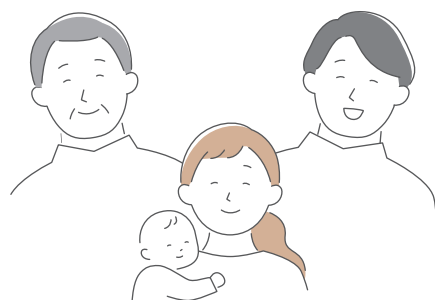
*** SAVE THE CHILDREN



KOB E こどもがつながる プロジェクト

全国初となる“新しい子ども医療”を中心とした街づくりを提案！

小児科と産婦人科が
強力なタッグを組んで



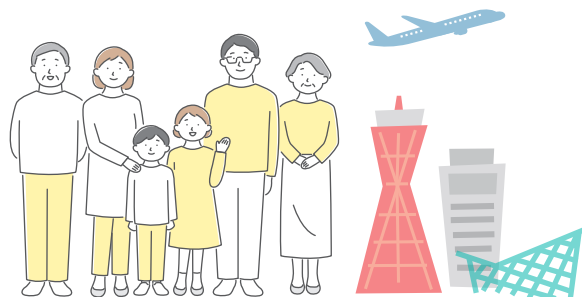
重い病気の子どもを救い
笑顔が戻れば



病気の子どもをもつ
家庭全員の負担も軽減



子育て支援機関や幼保、学校とも連携を図り
病気の子どもだけではなく、
すべての子どもたちを守り育てる拠点へ



子どもの先進医療に特化した医療産業都市・神戸
には全国、そして世界から人が集まってくる



2040 年までには、日本中で実現したいこと

このプロジェクトは神戸をモデルケースとして発動しますが、最終的に
2040 年までには、**全国のどの地域でも以下のことが実現**できることを
目標にしています。

①

健康な子どもたちと同じように、病気の子どもたちにも健康な体とより可能性に満ちた未来をもたらす



将来的に活躍できる人材が増加

②

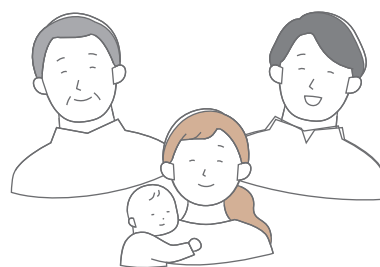
病気の子どもをもつ家庭の経済的・心理的不安を取り除く環境整備



当事者のニーズをダイレクトに収集

③

小児科と産婦人科が連携することで患者ニーズにあった高度先進子ども医療を安全かつ安価で提供



世界的に遅れがちな
移植医療などの推進

④

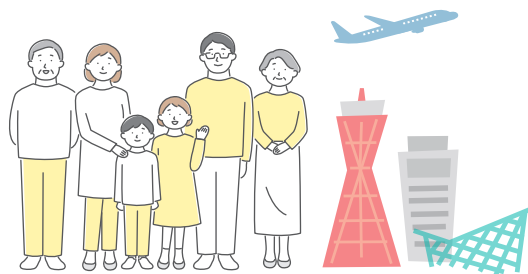
子育て支援センターや幼保、学校などとも連携し、病気の子どもだけではなく、すべての子どもたちを包括的に守り育てる仕組みづくり



すべての子どもが必要とする医療
を中心とした仕組みづくり

⑤

国内はもとより、海外からの患者も受入れ、世界に誇る真の高度医療先進国・日本の基礎を築く



神戸のポートアイランドは
モデルケースとして最高の条件を備えている

なぜ神戸からスタートするの？ 私たちだからこそできること



兵庫県立こども病院

HYOGO PREFECTURAL
KOBÉ
CHILDREN'S
HOSPITAL

院長 飯島 一誠 先生

神戸大学小児科教授を経て、現職。
こども病院院長として総合周産期母子医療センター・小児救命救急センター・小児がん医療センター・小児心臓センターなど兵庫県を代表する子ども医療施設を統括。

COLLABORATION



神戸大学

大学院医学研究科
小児科学分野
医学部附属病院

教授 野津 寛大 先生 / 特命教授 永瀬 裕朗 先生



神戸大学

大学院医学研究科
小児科学分野
造血幹細胞医療創成学
特命教授 宮西 正憲

高度医療・先進医療を推進し、兵庫県のこども医学・医療における中心的役割を担う。また、小児科研修施設としても研修医数は毎年全国トップ5、西日本第1位を誇り、質の高い教育で小児医療のスペシャリストを育成。

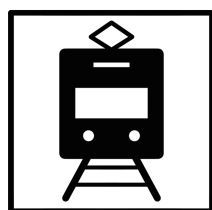
プロジェクトの発起人でもある宮西正憲は、産婦人科医であり、現在は神戸大学の小児科所属。主に、小児がんや白血病など難病に苦しむ子どもたちのために造血幹細胞を用いた新規治療法の研究・開発に取り組んでいる。

―― “神戸発” であるべき理由

神戸は医療産業都市として20年以上の歴史を誇り、現在では**日本最大のバイオメディカルクラスター**です。全国初となる“子ども医療”を中心とした都市づくりの条件（人材、機関、技術、経験 etc）では、どの都市にも負けません。

―― 神戸の “ポートアイランド” であるべき理由

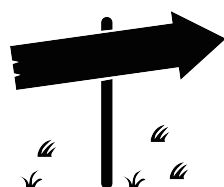
【社会実装のモデルケースに最適】



近畿圏に広がる充実した鉄道網を中心に
三宮からも近くアクセス良好



国際化予定の神戸空港があり、全国はもとより、世界中から人々が集える環境



有効活用できる空地や空間に余裕があり
島内はコンパクトで移動も便利

―― “私たちだからこそ” といえる理由



兵庫県立こども病院は、1970年に開設。
24時間体制の診療を行い、子どもたちと
そのご家族を支える“最後の砦”として、
さまざまな難題に向き合ってきた実績が
あります。

生まれたばかりの超低出生体重児から思春期までの子どもたちの、遺伝子から心の問題までを、幅広く診療・研究してきた経験から、日本のみならず世界の子どもたちの成長・発達を援助するノウハウがあります。



産婦人科出身医師であり、現在は神戸大学小児科で、難病に苦しむ子どもたちを救うための研究に取り組んでいます。このプロジェクトの橋渡し役としては適任かと自負し、尽力しています。

【※注1】

このプロジェクトの一環である『**Birth2.0**』とは？



日本の出生率低下は、社会問題として大きく取り上げられるものの未だ改善の兆しはなく、最新データである 2021 年合計特殊出生率も 1.30 である。（※データ上、1.5 未満が「超少子化」水準で、1.3 未満はさらに深刻な状態とされる）

この状況を危ぶみ、「**少子化は災害だ**」のキャッチフレーズのもと各所で公演を行う宮西正憲が、医療のプロフェッショナルの立場から “**日本の出生率 2.0**” を目指し、さまざまな分野の方々と協働する 少子化対策プログラム

プロジェクトが成功したMIRAIは、こんな街に



イメージするのは
映画「ベイマックス」
の世界観

古き良き街並みを大切に保ちながらも
テクノロジーが発達し、ケア・ロボットが
友人のように人に寄り添う

時間もお金もかからず、訪れるだけで
人々が心身ともに健やかさを取り戻せる都市

なんだか神戸に
似てる！？

映画「ベイマックス」より画像引用



からだを守る

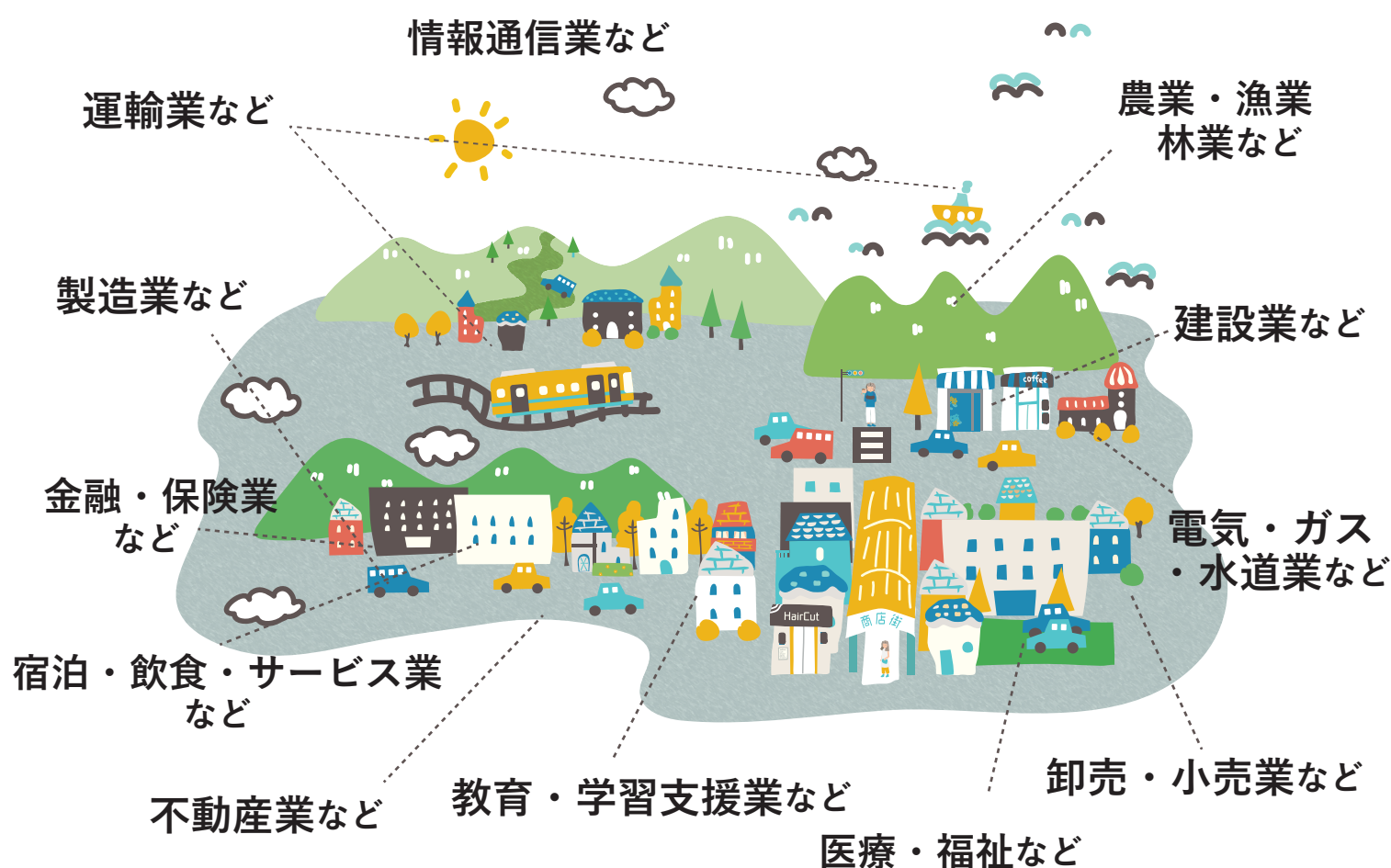
旅にしよう！ いざ日本へ

国内はもとより海外に向けた医療ツーリズムの提案など、世界中の人々が
病気治療だけではなく、健康な心身を保つ（予防・健診）ための旅先とし
て選ぶ高度先進医療と癒しの街に

プロジェクトの実現化にもっとも必要なこと

各業界の方々からの
プロジェクトへのご参加・賛同を
お待ちしております!!

街に存在するさまざまな産業が
複合的に結びつくこと



このプロジェクトでは、
“子ども医療” はきっかけであり、スタート地点

日本における **Smart Wellness City** の基礎
となることが目標です。

こどもの世界の問題解決は、おとなの世界でも役に立つ！

Ex) 子ども用品の開発は、おとな（特に看護や介護、障がい者）の世界でも活躍する“ユニバーサルデザイン”のことが多い

＊ ＊ バリアフリー目線はアイデアの宝庫 ＊ ＊

- ・ バリアフリー目線（こどもや障害者の目線）で商品を見直すと、意外な欠点が浮かび上がり、そこから新しいアイデアが生まれる
- ・ バリアフリー目線で商品やサービスを見直せば、無限にアイデアが湧いてくる

こどもプロジェクトは、“社会実装”の場

社会で 最も小さき、弱きこども を救うことは
多くの大人たちを救うことにもつながっています



Contact Us

プロジェクトについて
ちょっと聞きたい！
→

プロジェクトに参加
したい！【法人・個人問いません】
→

プロジェクトで
ボランティアしたい！
→

プロジェクトに
寄付をしたい！
→

プロジェクトに
アドバイスしたい！
【特に病児看護経験のあるご家族や
医療関係者の方】
→

プロジェクトを
取材したい！
→

【Web フォーム】でのお問い合わせ ※匿名でもご連絡が可能です ※24 時間受付

<https://forms.gle/2TZPxhghYWPAQUNy5>

↑Webでご覧の方は、こちらをクリックしてください



【お電話】でのお問い合わせ

Tel : 078-304-6037 ※平日 9 : 00 ~ 16 : 00 受付



神戸大学 大学院医学研究科

小児科学分野 造血幹細胞医療創成学部門

宮西研究室プロジェクト事務局